

## 京都ノートルダム女子大学中期目標・中期計画

(期間 2020年4月～2025年3月)

### 基本目標

京都ノートルダム女子大学は、「徳と知」の建学の精神と、行動指針としての「ミッション・コミットメント」を拠り所として、キリスト教精神に基づく全人教育を使命としている。今後もこれまでの実績を基盤とし、日本の社会の要請やグローバル社会の動向を見極めながら、「共生社会を創造する」女性の育成を目指すものである。2021年度に創立60周年を迎えることから、その節目を是さむ今後5年間の目標を、教育、研究、社会貢献、管理運営の諸点において以下に掲げる。

- 1 地球環境問題や社会問題など、現代の国際社会が抱える様々な負の側面や問題を常に心に留めつつ、その一員として、カトリックの倫理観を基本に、望ましいあり方を思考し、実践、追究することで国際社会に貢献できる先導的な女性を育成する。
- 2 考え、共感し、行動・協働する力の涵養を目指し、“対話”を基本とした「ことばの教育」に全学で取り組む。
- 3 国際性を育む大学として、学生の海外派遣および世界からの多様な学生の受け入れとともに、その基盤となる外国語（語学）教育や国際交流を推進する。
- 4 地域や地元企業との連携を重視し、教育、研究の成果の還元に努める。同時に知の拠点として、教員の研究活動の持続性を保証し得る大学運営に努める。
- 5 小規模大学の特性を活かし、教育、研究、学生支援、社会貢献および大学運営において、機動性、柔軟性をもったガバナンス体制を構築する。
- 6 教育研究の持続性を確保するため、大学における財務改善を進め、財政の安定化を図る。

中期目標	中期計画
<b>1. 教育の質の向上に関する目標</b>	
(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標	
1) 全学教育の特色づくりとその打ち出し	1)-1 特色ある新共通教育課程の策定、および全学的な初年次教育の整備・検証を行う 1)-2 学修者本位の教育の推進 1)-3 カリキュラムを補強する正課授業外教育プログラムを開発、実践する 1)-4 大学広報により教育の特色を可視化する
2) 特色ある学部、学科専門教育の明確化	2)-1 研究業績・実績を活かした教育の特色づくりを推進する 2)-2 入試広報場面で学科教育の専門性を的確にアピールする
3) 社会とつながる実践的な教育の展開	3)-1 地域や行政、企業の現場での新たなサービス・ラーニングを開発、実践する 3)-2 産業界で実務経験のある教員等の登用、配置を行う
(2) 教育の質保証に関する目標	
1) 教学マネジメント会議の下での教学協議体制の確立	1)-1 学部、学科およびND教育センターと連携した教学マネジメント会議の運営を定着させる 1)-2 3つのポリシーに基づき、学部・研究科の教育活動の検証を徹底する 1)-3 IRの結果を教学に活かすサイクルを構築する
2) 学修成果の可視化と情報公開	2)-1 アセスメントポリシーに基づく実質的な検証を行う 2)-2 学修成果の評価システムを確立し、学内外に明示する
<b>2. 学生支援に関する目標</b>	
1) 退学者を減らすための学習および生活支援体制の強化	1)-1 担当学生数や面談の仕方を見直すなど、担任制度の実質化を図る。 1)-2 経済的困窮学生に対する奨学金等、支援制度の運用を強化する
2) 社会状況に応じた奨学金制度、授業料減免制度の整備	2)-1 現行制度の有効性、公平性の検証、更新および新制度の検討を行う
3) ダイバーシティ推進のための制度・環境整備（ダイバーシティ：多様性）	3)-1 受け入れ時の体制および学習支援や相談支援の体制を充実化する 3)-2 必要に応じた施設、設備等、キャンパスの環境整備をはかる
4) 充実したキャンパスライフによる学生満足度の向上	4)-1 学生会、クラブ、課外活動の支援を強化し、学生の交流を促進する 4)-2 学生寮の運用について検証、改善し、より快適な寮生活を提供する
<b>3. 入学者選抜、学生募集に関する目標</b>	
1) 高大接続改革に則った適切な入学者選抜システムの構築	1)-1 高大連携校(同一法人校含む)との接続プログラムを強化することにより、「総合型選抜」を活性化させる 1)-2 学力を構成する3つの要素(①「知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力」、③「主体性」)を踏まえた入試方法の多様化、評価尺度の多元化をはかる 1)-3 高校での様々な活動の記録(電子データを含む)の活用等、高校での活動の適正な評価方法を構築する
2) 多様化する社会の要請に応える入試制度および学生募集体制の充実強化	2)-1 多様なバックグラウンドを持つ者(社会人、帰国生徒、外国人留学生等)を対象とした入試を推進する 2)-2 入学手続(入金システムを含む)のオンライン化を行う

3)	学生募集における安定性の確立	3)-1	志願者状況を踏まえ、入学定員の改編への柔軟な対応を行う
		3)-2	広報戦略の一環として、段階的に高校との信頼関係を強化し、その成果を可視化する。
		3)-3	入学定員充足率100%を維持する。
<b>4. 教育のグローバル化に関する目標</b>			
1)	外国人留学生受け入れ体制の強化	1)-1	2024年度まで段階的に、外国人留学生の割合を在籍者総数の4~5%に増加させ、維持する
		1)-2	外国人留学生に対するキャリア教育・支援の推進
		1)-3	外国人留学生募集強化のためのポータルサイトの構築とホームページの多言語化をはかる
2)	海外の大学や機関・組織との連携による学生、教員の国際交流の強化	2)-1	新たな協定大学の開拓、連携の強化に努める
		2)-2	学部課程への新たな海外留学プログラムの提供と派遣留学生に対する語学力強化システムの充実強化を行う
		2)-3	外国語による教育情報の公表を積極的に行う
3)	外国語教育の充実化	3)-1	英語正課授業の強化のための担当者の連携、履修指導、成果評価等の取組を強化する
		3)-2	イマージョンスペースの利用促進および多言語化をはかる
4)	海外での実践教育の展開	4)-1	海外におけるインターンシップ、サービスラーニングを開発、実践する
<b>5. キャリア教育・支援に関する目標</b>			
1)	正課授業外プログラムも含めたキャリア教育の充実化	1)-1	企業との連携実践授業「キャリア形成ゼミ」の安定的開講をはかる
		1)-2	キャリア女性としての態度養成等、就活に向けたブラッシュアップ講座を開発する
2)	卒業生との関係強化による学生の就活支援体制の整備	2)-1	大学内にND版メンター制度を構築する
		2)-2	正課授業および正課外教育プログラムでの卒業生の協力体制を整備する
3)	キャリアセンタースタッフの支援体制の強化	3)-1	多様な研修機会や他大学との交流等による研鑽と外部キャリアアドバイザーによる 専門研修などを実施する
<b>6. 研究活動に関する目標</b>			
1)	学内外の共同研究および学際的研究の推進	1)-1	科研費等外部資金の獲得による研究の推進
		1)-2	学部横断研究や学科横断研究を推進する
2)	研究成果の社会への発信強化	2)-1	ホームページによる学内教員の研究成果の発信を充実化させる
		2)-2	科研成果発表の定例化
3)	教員の研究支援環境整備	3)-1	若手教員の研究時間確保のために大学業務のスリム化や業務担当ルール作る
		3)-2	学内の研修助成制度を改善する
<b>7. 社会との連携、地域貢献に関する目標</b>			
1)	本学の知的資産を活かしたりカレント教育の提供による社会貢献の推進	1)-1	卒業生や一般市民を対象にしたリカレント教育プログラムを企画、開発する
2)	地域や産業界の課題に取り組むプロジェクトの推進	2)-1	行政の取組に積極的に参画する
		2)-2	NPOや民間企業との連携事業を推進する
		2)-3	大学コンソーシアム京都をプラットフォームとした地域や企業との協同事業に参画する

<b>8. 管理運営に関する目標</b>		
<b>(1) 大学の質保証に関する目標</b>		
1) 自己点検・評価の充実強化と内部質保証システムの確立	1)-1	自己点検評価サイクルの実質化を徹底する
2) 第3期目の認証評価に向け重点強化・対応	2)-1	2022年度に認証評価を受審するための準備及び受審後の対応を滞りなく行う
	2)-2	外部評価委員会を開催して、学外者の検証を受ける
<b>(2) 人事に関する目標</b>		
1) 透明性・計画性のある人事管理	1)-1	法令・規則およびルールを遵守した人事を行うとともに、教員にあっては、人事委員会での審査を通じ、透明性のある教職員人事を行う
	1)-2	年齢・職位等においてバランスのとれた計画性のある人事を目指す
2) 実務家教員の採用・登用	2)-1	教育研究業績のほか、豊富な実務経験のある教員の登用に努める
3) 教員の評価制度の構築	3)-1	教員の活性化に繋がる趣旨・目的の教員評価制度を導入する
4) 職員のスタッフ・ディベロップメント(SD)の強化	4)-1	職員の能力開発の強化を図り、教育支援や管理運営を主体的に担う職員の育成を図るため、SD活動を強化・推進する
	4)-2	適材・適所のほか、業務対応した重点配置を推進する
<b>(3) 財務に関する目標</b>		
1) 健全な財務体制への転換、財源の安定的確保	1)-1	学生納付金、補助金、科研費等外部資金、寄付金等、自己収入を増加させる
	1)-2	財務関係比率に関する指標を可視化し、人件費、管理経費の抑制と効率的な執行を行う
	1)-3	大学会計の事業活動収支差額の2024年度以降黒字転換と人件費率の適正化をはかる
2) 経常費補助金の満額受給	2)-1	収容定員充足率91%以上を維持し、補助金の満額受給、継続した補助金収入の増加に努める
<b>(4) 業務運営・改善に関する目標</b>		
1) 中期計画と年次計画の実質化、活動指標の明確化	1)-1	年次計画の各取組には予め活動指標を設定し、その達成度を確認、改善につなげる仕組みを全学で実行する
2) 創立60周年記念事業の実施	2)-1	創立60周年記念事業委員会を設置し、組織的なプロジェクトとして2021年に記念事業を実施する
	2)-2	2020～2021年度の2年間にわたり、創立60周年記念募金を募る
3) IR機能の整備と運用	3)-1	教学及び管理運営に関する客観的データを一元化して収集、分析し、企画立案や意思決定を支援するインスティテューショナル・リサーチ(IR)の整備と運用を行う
4) 事務の効率化とDX化推進	4)-1	事務システムの効率化や会議、文書管理等、事務全般のデジタルトランスフォーメーション(DX化)を推進する
5) 災害時に迅速に対応できる危機管理体制の構築	5)-1	地震や台風等の災害時に関係者が迅速に連携して緊急対応ができる体制の整備を強化する
<b>(5) 施設設備の整備等に関する目標</b>		
1) 財政状況を踏まえた中長期的な施設の維持管理計画	1)-1	財務状況を踏まえた上で、経年劣化、老朽化する施設設備の計画的な整備・改修・修理等を行い、持続可能なキャンパス整備に努める
	1)-2	ユニゾン会館の設備改修、テレジア館、別館、マリア館の建物診断、改修を計画的に進める
2) 「教育研究環境整備方針」に基づく教育研究活動に必要な施設・設備の整備	2)-1	学生の主体的な学習に配慮した教育環境の整備を行う
	2)-2	施設・設備の利用状況の把握、適切性について検証する